

点滴化学療法患者の転倒予防への取り組み

キーワード：点滴化学療法・転倒予防・環境因子

2病棟4階

河村祐美香 杉野周子 前杏奈 小池佳世子 福永智子 三好雅代

I. はじめに

入院中の転倒・転落は患者に身体的・精神的影響を及ぼすだけではなく、医療費の増大などの社会的な影響も大きく、医療者には転倒・転落を予防し、安全な医療を提供することが求められている。A病棟でも、入院時に転倒・転落アセスメントチェックリストを記入し、転倒予防に努めている。

先行研究で、化学療法は転倒・転落リスクを高める要因の一つとされている。化学療法中の転倒の原因は、抗がん剤の副作用による患者の身体的因子や点滴を受ける環境に関連した因子があるといわれている。B病棟の過去2年間の転倒報告は29件あり、そのうち17件は化学療法を受けた患者であった。私は、点滴化学療法中の患者で転倒による腰椎圧迫骨折を契機にADL低下をきたし、症状の悪化を余儀なくされた症例を経験し、転倒を防ぐにはどうしたら良いかを考えるようになった。そこで、今回転倒予防への取り組みとして、環境に関連した因子のうち点滴スタンド、輸液ポンプの状態に着目して研究を行ったので報告する。

II. 目的

独自に作成した適切な点滴スタンド・輸液ポンプの設置状態を記したチェックリストを活用して、点滴化学療法中の患者の点滴スタンド・輸液ポンプを適切な状態に整えることが看護師に意識づけされ、習慣化する。

III. 方法

1. 研究期間

平成24年7月～10月

2. 対象

チェックリスト使用期間

平成24年8～9月に点滴化学療法を受けた中央トイレまで歩行が可能な患者 49名
前後調査

平成24年7月と10月の無作為に選んだ日に点滴化学療法を受けた患者 各5名

3. 研究方法

- 1) 点滴スタンド・輸液ポンプを適切に整えるための5つの項目をのせた点滴スタンド・輸液ポンプチェックリスト（以下、チェックリストとする）とそれらをわかりやすく載せた写真（以下、フォトシートとする）を独自に作成する。
- 2) チェックリストの使用方法を病棟会でB病棟看護師に説明する。

- 3) 8～9月にチェックリストを点滴化学療法開始時の患者のベッドサイドに設置し、勤務ごとに看護師がチェックリストに沿って、適切に整備する。フォトシートは点滴スタンドに設置する。
- 4) 7月と10月の無作為に選択した日に研究メンバーがその日の点滴化学療法中の患者の、点滴スタンド[®]・輸液ポンプ[®]の状態をチェックリストに沿って調査し、単純集計する。

(表1) 点滴スタンド・輸液ポンプ点検表

		点滴スタンド・輸液ポンプ点検表					()		様)	
点検項目		/	/	/	/	/	/	/	/	
①輸液ポンプと輸液バッグの位置は逆サイドにある *輸液ポンプの真上に輸液バッグはつるさない										
②輸液ポンプは上から見て、点滴スタンドの足に乘るような位置に取り付ける										
③輸液ポンプは点滴スタンドの調整部より10cm下方に取り付ける										
④輸液ルートの長さは適切である *輸液ルート+エクステンション50cmを基本とする										
⑤点滴スタンドは動きやすい										
看護師サイン欄	深夜									
	日勤									
	準夜									



IV. 結果

研究期間中の対象 49 名に対し、チェックリストを使用し環境を整え、チェックリスト使用前各 5 名に対し 7 月と 10 月に調査した結果、できていた割合は「①輸液ポンプと輸液バッグの位置は逆サイドにある」前後とも 40%、「②輸液ポンプは上から見て、点滴スタンドの足に乗るような位置にとりつける」「③輸液ポンプは点滴スタンドの調整部より 10cm 下方に取り付ける」「④輸液ルートの長さは適切である」は前後とも 100%で①～④は前後で変化はなかった。「⑤点滴スタンドは動きやすい」前 80%後 60%ができ、後の方が減少した。

(表 2) 導入前後の結果 点滴スタンド・輸液ポンプが適切に整っていた数

	前	後
①輸液バッグとポンプは逆サイドにある	2	2
②上から見て、輸液ポンプはスタンドの足に乗るような位置にとりつける	5	5
③輸液ポンプは調整部の10cm下方に取り付ける	5	5
④点滴ルートの長さは適切である	5	5
⑤点滴スタンドは動きやすい	4	3

しかし、B 病棟の看護師の感想では、「輸液バッグと輸液ポンプの位置のバランスを考えるようになった」「点滴スタンドの動き安さを考えるようになった」「患者の動きに合わせて注意を払うようになった」という声が聞かれ、チェックリストを使用することにより点滴中の患者の安全への意識付けができた。

V. 考察・結論

今回の取り組みで、チェックリスト導入前後の比較で点滴スタンド・輸液ポンプが整い、転倒予防につながったとは言えない。その原因として、日々の業務量、稼働率の違いなどが考えられる。スタッフから「忙しくて、つなぎやすい方に次の点滴バッグをつないでしまう事もあった」「なるべく動きやすいものにしたいという気持ちはあるが、スタンドがなく、選べない時もあった」という声も聞かれた。しかし、「初めて知識として得られたので気をつけるようになった」「なぜそうしなくてはならないか必要性が分かった」という声も聞かれた。

チェックリストに従い点滴スタンド・輸液ポンプを整えることで、正しい位置、バランスの確認や動きやすいものを選択することができ、それが転倒予防につながるということを提示することができた。このことより「スタッフ間の知識の統一」「意識付け」「行動の変化」のきっかけにつながったと思われる。

杉山は、医療者の不安全行動や不安全な環境や設備の状態が転倒・転落を引き起こす要因の一つであると述べ、リスク感受性を高め、エラーや事故の可能性を察知し、事前に防止する手だてを講じる能力を身につけることが必要である¹⁾と言っている。今回の研究は、医療者に対して危険を察知し排除するための判断、行動をとるための意識変化を促すきつ

かけとなったと考える。

今後も、点滴中の患者にチェックリストやフォトシートを使用することでスタッフの意識を高め、さらに環境面全般を整えていくことが、転倒予防につながると思われる。

引用文献

- 1) 杉山良子編：転倒・転落防止パーフェクトマニュアル，学研メディカル秀潤社，P124.
2012.

参考文献

- ・古川裕之：転倒・転落はなぜ起きるの？6) 転倒・転落リスクを高める薬剤，Nursing Today 臨時増刊号，vol. 22. No. 12，P65～69，2007.
- ・矢吹浩子：エキスパート直伝！いつものケアにプラスひとワザ！No. 8，消化器外科 NURSING vol. 14，P8-10，2009.
- ・建宮かおり：化学療法中に転倒の危険があった患者に対する看護師の認識－肺癌の患者を対象として－，日本がん看護学会誌，17：P183，2003.